

古代文明の生成過程

マヤとアンデスの比較

■日時■
2013年1月27日(日) 13:00～16:00 [開場 12:30]

■場所■
キャンパス・イノベーションセンター東京〈1階 国際会議室〉
(東京都港区芝浦3-3-6)



アメリカ大陸では、中米に位置するメキシコやグアテマラを中心にマヤ、アステカなどの古代文明が、南米のアンデス山脈にはインカに代表されるアンデス文明が成立しました。本フォーラムでは、中米のマヤと南米のアンデスをとりあげ、この地で長らく研究に携わってきた日本人研究者に最近の調査成果を報告してもらうとともに、両地域の古代文化の特性について、比較してみたいと思います。近年、いずれの研究分野でも、学問領域の細分化が進み、個別的なデータの蓄積は図られつつあるものの、普遍化や一般化を敬遠する傾向が見られます。本フォーラムはこうした現代の学問潮流に一石を投じ、比較の視座を確保しながら、古代文明の生成過程を改めて考察しようと考えています。

【定員】100名(先着順) 【参加費】無料(申し込み不要)

【主催】国立民族学博物館・科学研究費補助金基盤研究(S)
「権力の生成と変容から見たアンデス文明史の再構築」
(代表：関雄二)

【共催】科学研究費補助金新学術領域研究
「環太平洋の環境文明史」(代表：青山和夫)

【協力】古代アメリカ学会

問い合わせ先

国立民族学博物館 関研究室

TEL 06-6878-8252 FAX 06-6878-7503

E-mail sekiken@idc.minpaku.ac.jp

みんぱく
携帯
サイト



PROFILE プロフィール



猪俣 健(いのまた たけし)
●アリゾナ大学教授

マヤ考古学。グアテマラのアグアテカ、セイバル遺跡での発掘調査を通して、マヤ文明の起源と社会変動を研究している。

主な編著書にThe Classic Maya (2009年、Cambridge University Press)、Burned Palaces and Elite Residences of Aguateca (2010年、University of Utah Press) Archaeology of Performance(2006年、AltaMira Press)など。



青山和夫(あおやま かずお)
●茨城大学教授

専門はマヤ考古学。「古典期マヤ人の日常生活と政治経済組織の研究」で日本学術振興会賞、日本学士院学術奨励賞を受賞。

主な著書に『古代マヤ』(2005年、京都大学学術出版会)、『古代メソアメリカ文明』(2007年、講談社)、『マヤ文明』(2012年、岩波新書)、『“謎の文明”マヤの実像にせまる』(2012年、NHK出版)などがある。



松本雄一(まつもと ゆういち)
●国立民族学博物館機関研究員

専門はアンデス考古学。アンデスにおいて従来、「周縁」と見なされてきた地域で考古学調査を行い、文明の形成過程をボトムアップの視点から問い直す試みを続けている。

著書に「Prehistoric Settlement Patterns in the Upper Huallaga Basin」(近刊:イェール大学人類学出版局)がある。



関 雄二(せき ゆうじ)
●国立民族学博物館教授

専門はアンデス考古学、文化人類学。南米ペルーにおいて神殿の発掘調査を行い、アンデス文明の成立と解明に取り組んでいる。

主な編著書に『アンデスの考古学』(2010年、同成社)、『古代アンデス 権力の考古学』(2006年、京都大学学術出版会)、『古代アンデス 神殿から始まる文明』(2010年、朝日選書)などがある。

PROGRAM プログラム

13:00~13:05
あいさつ

13:05~13:35
「遠隔地交流と複雑社会の形成
—アンデス中央高地の事例から—」
松本雄一(国立民族学博物館)

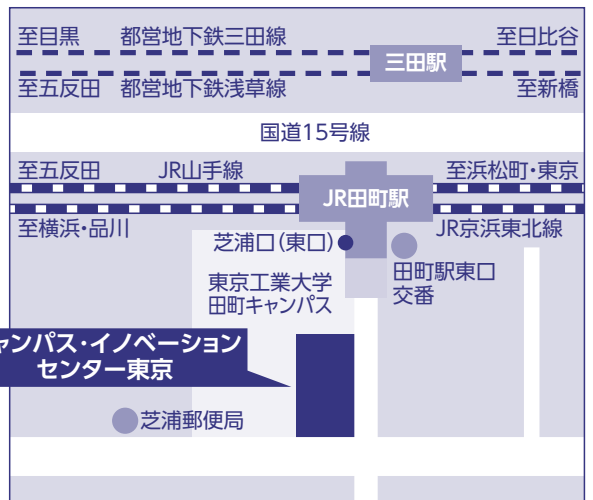
13:35~14:05
「アンデス文明における権力の発生—最新成果報告」
関 雄二(国立民族学博物館)

14:05~14:35
「石器研究からみるマヤ文明の盛衰」
青山和夫(茨城大学)

14:35~15:05
「セイバル遺跡の発掘成果とマヤ文明の起源」
猪俣 健(アリゾナ大学)

15:05~15:15
休憩

15:15~16:00
ディスカッション



- J R/山手線・京浜東北線「田町駅」から徒歩1分
- 地下鉄/都営地下鉄浅草線・三田線「三田駅」から徒歩5分